

巻頭言

St. Paul's Librarian は今号が 30 号です。大きなリニューアルをしてから 4 回目の発行となりました。お恥ずかしい仕事ぶりで、毎年、修正を続けてきて、やっと形が落ち着いてきました。書物の研究も含まれる図書館情報学の研究者を自覚しながら、雑誌の編集は相変わらずの素人仕事ですが、寛容な司書課程関係者から変わらず、貴重な原稿をお寄せいただき、感謝しています。

今号は、冒頭に、柴内康文先生の公開講演会「図書館とソーシャル・キャピタル」の記録を掲載することができました。社会心理学の研究者で、インターネット等のコミュニケーション・メディアの研究で知られる柴内先生は、ソーシャル・キャピタル (Social capital; 社会関係資本) に関する基本書の Putnam, Robert D. *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*. New York, Simon & Schuster, 2000, 541p. を一人で翻訳されるという大変なお仕事をなさって、その翻訳書でも著名な方でいらっしゃる。お忙しい中、ご講演をお引き受けいただき、ほんとうにありがたく、またこうして記録を残すにあたっても、心苦しく思いながらも整理作業をお願いし、この場を借りて、改めまして、柴内先生に心より御礼を申しあげます。ありがとうございました。

今年度も、学生たちに寄稿してもらいました。ひとつは、陸前高田に行った学生からの報告です。今年度の訪問は、文学部教育学科の河野哲也先生のゼミ生、また河野先生が交流しておられるノース・テキサス大学で日本語を学ぶ学生たちもいっしょで、大変、新鮮な感じがいたしました。そのほか、今年度末の卒業生で、図書館・情報学の大学院への進学を決めた二人からの、進路決定までの準備の報告、そして、図書館実習に行った二人からの、学外での実習に行く前から行った後までの経験の報告を寄せてもらいました。図書館実習報告は昨年からの形ですが、学生ならではの視点で、非常に根本の本学司書課程の課題を指摘してくれているので、このようなものが数年分になると、相当いろいろ見えてくることがあるかなと考えております。

図書館実習事前指導Ⅰには、ゲストスピーカーとして卒業生で浦安市立中央図書館司書の鈴木均さんにいらしていただくことができました。限られた時間の中で、とてもわかりやすく、同図書館の現状、図書館実習の概要、司書の採用についてをご紹介いただきまして、貴重な記録となりました。本年度の司書課程主催の行事のひとつ、年度末の 3 月に開始した連続公開シンポジウム「司書教諭資格付与科目の教育実践を検討する」第 1 回の記録も掲載できました。この公開シンポジウムは、隔月として、2016 年 5 月、7 月、9 月、11 月に実施予定で、来年度の本紀要に記録をまた掲載する予定であります。

研究報告としては、兼任講師の折田洋晴先生から今年も貴重な原稿をお寄せいただきました。折田先生は今年度が本学へのご出講の最後の年となりましたが、これからも、ぜひ、本学司書課程に対して折々にご指導をいただければと願っております。折田先生の玉稿に続けて、「図書館総合演習」での調査・研究をまとめた、東山由依さんのレポートを掲載しています。調査には、二つの私立学校の司書教諭の先生方にご協力いただきました。お忙しい中、お時間をとって辛抱強く学生に対応していただいた先生方に、心より御礼申しあげます。今号には、さらに、大学院生の小出晋之将さんと上田修一特任教授からも原稿をお寄せいただきました。この場を借りまして、みなさまから貴重な原稿をお寄せいただきましたことに、心より御礼を申しあげます。

中村 百合子
(立教大学司書課程主任)